

平成28年度 個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育 研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

通信制の課程に在籍する発達障害等による困難のある生徒の自立と社会参加を図るための新たな指導領域として自立活動の導入、及び他校に在籍する生徒の受講を可能とする通級による指導に類した実践に関する研究開発

2 研究の概要

通信制の課程における発達障害等による困難のある生徒への支援体制の強化及び各高等学校の支援の充実に関して、通信制の課程の特質を適切に活用した支援の研究を進める。

(1) 専門家や関係機関と連携した校内支援体制を確立する。

(2) 特別な教育課程を編成するため、以下の研究を行う。

- ア 高等学校に新たな指導領域として、自立活動の内容を取り入れた「社会とつながる力」を開設し、生徒の学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導を行う。
- イ 他校に在籍する生徒が「社会とつながる力」を受講できるよう通級指導に類する実践に関する研究を行う。

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究開始時の状況と研究の目的

ア 現状

- ・通信制の課程には発達障害等による困難のある生徒が多く在籍している。
- ・発達障害等に起因する不応答により通信制の課程に転編入する生徒も少なくない。
- ・特別支援教育に関する知識・経験の少ない教員の中には対応に悩む場面も多い。

イ 研究目的

- ・通信制の課程に在籍する該当生徒が社会生活上必要なスキルを習得するための指導領域「社会とつながる力」を開設し、自立活動に類する取組を高校で行う場合の問題点等を洗い出し、生徒への効果について検証する。
- ・他校に在籍する該当生徒が「社会とつながる力」を受講できる仕組みを作る上での問題点を掘り起し、効果的な方法を探る。
- ・専門家や関係機関との連携や高い専門性を有する教員の配置による校内支援体制（組織）の在り方や活用方法を探り、有用な組織づくりについて研究する。

(2) 研究仮説

ア 通信制の課程に在籍する該当生徒がコミュニケーション能力、対人関係構築力などの社会生活上必要なスキルを習得するための指導領域「社会とつながる力」を開設する。「社会とつながる力」の受講により、受講生徒の情緒安定に寄与し、他者とのかわりの基礎を学び、コミュニケーション能力を高め、障害による学習上・生活上の困難を改善・克服する。

イ 他校に在籍する該当生徒が「社会とつながる力（コミュニケーションスキル講座）」

を受講できる仕組みをつくり、帰属集団から離れることで生徒の自尊感情や心理的な抵抗感に配慮した通級による指導に類する実践を行う。通信制の課程の特徴を生かす実践（自由度の高い通級指導）をとおして、障害による学習上・生活上の困難を改善・克服する。また、高等学校における通級指導に関する仕組みを構築する。

ウ 専門家や関係機関との連携や高い専門性を有する教員の配置により、生徒・保護者への教育相談、教員に対する助言や研修を充実し、校内支援体制を強化する。このことを通じて、教員の資質向上を図り、生徒への計画的・組織的指導を可能とする。

(3) 教育課程の特例

教育課程の特例の内容	指導内容	授業時間数・単位数等
自立活動の内容を取り入れた「社会とつながる力」を開設する。	SST（ソーシャルスキルトレーニング）等からなる講座を通して、学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導を行う。	通年 60 時間 (1日4時間×15回)
他校に在籍する生徒に対し通級による指導に類する実践を行う。	同上	同上

(4) 個々の能力・才能を伸ばす指導（現行学習指導要領における一斉指導の改善工夫等）

- ア 生徒の情報を共有し、面接指導(スクーリング)時等で活用可能とする。
- イ 作成された個別の指導計画に基づき、各教科等にて指導を行う。

(5) 研究成果の評価方法

- ア 「社会とつながる力」が困難の改善・克服等に資する内容であるかについて、当該生徒・保護者・在籍校の教員・指導者等にアンケート調査を実施する。
- イ 通信制の課程における他校からの通級の受入れ体制、他校から通信制の課程への送り出す体制について、関係校から聴取し検証する。
- ウ 専門家や関係機関からなる運営指導委員会を設置し、生徒の社会生活や企業就労に向けた適応力を高める観点からの内容の検討や、通信制の課程を活用した通級による指導に類する実践の成果と課題を検証する。

4 研究の経過等

(1) 教育課程の内容

- ア 新たな指導領域として、自立活動の内容を取り入れたソーシャルスキルトレーニングからなる「社会とつながる力（コミュニケーションスキル講座）」を面接指導(スクーリング)実施日に開設し、生徒の学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導を行う。
- イ ソーシャルスキルトレーニングは、外部講師と本校教諭によるティームティーチング形式で実施する。
- ウ 参加生徒は、予め講座受講による到達目標を定め、絶対評価による評価を行う。
- エ 講座は本校及び他校の生徒を対象とする。

(2) 全課程の修了認定の要件

- ア 必履修科目の履修及び74単位の科目修得
- イ 卒業レポート(総合学習)の履修
- ウ 特別活動30時間の参加認定

(3) 研究の経過

	実施内容等
第1年次	<ul style="list-style-type: none"> ア 専門家や関係機関との連携による校内支援体制の構築 イ 校内研修等による専門性向上及び専門家や関係機関による教員への支援 ウ 実態把握の実施、個別の教育支援計画・指導計画の作成準備 エ 実態把握を踏まえた自立活動の内容検討及び教育課程への位置付け オ 「社会とつながる力」の試行的実施 カ 他校生徒が「社会とつながる力」を通級により受講可能な仕組の構築
第2年次	<ul style="list-style-type: none"> ア 専門家や関係機関との連携による生徒、保護者及び教員への支援 イ 実態把握を踏まえた個別の教育支援計画・指導計画の作成 ウ 試行結果を踏まえた「社会とつながる力」の運営 エ 「社会とつながる力」の評価及び単位認定の基準作成 オ 県内各高等学校との通級による指導（他校通級）における連携 カ 年度途中に希望者が受講できるカリキュラムの検討
第3年次	<ul style="list-style-type: none"> ア 通信制の課程の特色及び在籍生徒の特徴に対応した校内支援体制の確立 イ 「社会とつながる力」の運営 <ul style="list-style-type: none"> ・教材の体系化 ・一般化 ・受講者決定から評価まで手順のシステム化 ・小集団の中で個別指導を効果的に行う方法の検討 ウ 県教育委員会と連携した通級による指導（他校通級）の普及 <ul style="list-style-type: none"> ・通級に係る他校連携のシステム化を検討 エ 自立活動、通級による指導等に係る教育課程上の諸課題の検討
第4年次	<ul style="list-style-type: none"> ア 通信制の課程の特色及び在籍生徒の特徴に対応した校内支援体制の確立 イ 「社会とつながる力」の運営 <ul style="list-style-type: none"> ・教材の体系化・一般化 ・受講者決定から評価まで手順のシステム化 ・小集団の中で個別指導を効果的に行う方法の検討 ウ 県教育委員会と連携した通級による指導（他校通級）の普及 <ul style="list-style-type: none"> ・通級に係る他校連携のシステム化を検討 エ 自立活動、通級による指導等に係る教育課程上の諸課題の検討

(4) 評価に関する取組

	評価方法等
第1年次	<ul style="list-style-type: none"> ア 校内支援体制の構築等についての評価 <ul style="list-style-type: none"> ・実態把握の分析結果考察 ・校内組織の活用及び外部との連携の成果と課題 ・校内研修の成果、教員支援の要望 イ 「社会とつながる力」についての評価 <ul style="list-style-type: none"> ・適切な内容、回数、人数等を検証 ・取組の参観 ・感想、意見の聴取 ・受講生徒の困難の改善状況等 ウ 特別な教育課程の設定についての評価 <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動、通級指導の位置付けの検討

<p>第2年次</p>	<p>ア 校内支援体制の確立等についての評価 ・支援による改善状況確認 ・校内組織の活用及び外部との連携の成果と課題</p> <p>イ 「社会とつながる力」についての評価 ・取組の参観・運営の改善点・感想、意見の聴取・受講生の困難改善状況等</p> <p>ウ 特別な教育課程の設定についての評価 ・自立活動、通級指導の位置付けの検証 ・通級指導の成果と課題</p>
<p>第3年次</p>	<p>ア 校内支援体制の確立等についての評価 ・通信制の課程にふさわしい校内支援体制の検証</p> <p>イ 「社会とつながる力」についての評価 ・指導内容の体系化、シラバス作成 ・受講生徒の困難の改善状況等のまとめ</p> <p>ウ 特別な教育課程設定についての評価 ・自立活動、通級指導の位置付けの検証 ・通級指導の成果と課題</p>
<p>第4年次</p>	<p>ア 校内支援体制の確立等についての評価 ・通信制の課程にふさわしい校内支援体制の検証</p> <p>イ 「社会とつながる力」についての評価 ・指導内容の体系化、シラバス作成 ・受講生徒の困難の改善状況等のまとめ</p> <p>ウ 特別な教育課程設定についての評価 ・自立活動、通級指導の位置付けの検証 ・通級指導の成果と課題</p>

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

「社会とつながる力（コミュニケーションスキル講座）」は、自立活動の内容のうち、「心理的な安定」、「人間関係の形成」、「コミュニケーション」の区分を特に意識しながら開講した。

他校通級として参加した受講生徒の多くは、講座を受講後、自己肯定感を高め、心理的な安定が得られたように見受けられる。保護者や在籍高校との連携を深める取組により、実施校・在籍校相互の情報交換も密になり、在籍高校での生徒自身の困難さを解消する努力も見受けられ学習状況も向上する姿が見られた。

本校通信制の課程に在籍する自校通級の受講生の多くは、講座を実施する日に同時に行われる面接指導やテストとのスケジュール調整がスムーズに行われず、結果として出席率が低く、十分な効果が得られているとは言い難い状況にある。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

ア「社会とつながる力（コミュニケーションスキル講座）」は、①集団における学習の困難さを解消する、②他校の生徒も通級指導する、という目的で実施している。したがって小集団指導を行うことを前提に開講しているが、小集団指導において、個別の指導計画に基づいた個別の支援をいかにして効果的に行うかについては今後も継続して検討する必要がある。

イ 東中西3キャンパスで、少ない地区で6人、多い地区では各12人（2地区）いる他校通級生徒について、受講生徒の変化のあらわれ等の情報や指導方法について、受講生徒とその保護者、在籍高校の担任・養護教諭・カウンセラー・特別支援教育コーディネーター、外部講師、本校教員の情報共有を図るよう心がけているが難しい。本校教員には、平日には通信制の本来業務があり、一人一人の生徒について細かい連絡を

取り合う余裕がない。生徒本人の当日の様子について、担当者にメールで伝えるのが精一杯というのが現状であり、今後の課題であると考える。

ウ 他校通級の受講生徒と比較して自校通級受講生徒の出席率は低い。これについては、自校通級の受講生徒に関する下記の要因が推察される。

(ア)通信制の課程の生徒にとって、コミュニケーションスキル講座が面接指導及びテストと時間的に重なるため、欠席する機会が多い。

(イ) (ア)により、講座受講の継続性が失われやすく、受講集団内の生徒同士の関係性(友人関係)構築に支障が生じる。

「社会とつながる力(コミュニケーションスキル講座)」を面接指導(スクーリング)実施日(日曜日)に開設している以上、自校通級生徒の出席率の低さは解決が困難であると考える。これをどう改善していくかが今後の課題である。

エ 担当教員に心理的負担が生じている。通信制の課程では、生徒の出校日は基本的に面接指導(スクーリング)がある日曜日と水曜日(または木曜日)に限られている。教員にとって生徒と直接交流ができる面接指導日は大変貴重な機会であるが、日曜日に本講座を担当する教員はその場を失うことになる。代替講師にスクーリングを依頼するため表面上の問題は生じないが、該当教員には、クラスの生徒との交流を犠牲にして他校生徒の面倒を見ていることへの焦燥感や負担感が生じている。また、東西キャンパスにおいては、もともと教員が少ないため、講座の運営によって人手が足りなくなり、校内巡回など諸々の通信制の本来業務が手薄になっている。そのため、該当教員には、通信制業務の遂行に迷惑をかけているという心理的負担感も生じており、今後の課題であると考える。

オ ソーシャルスキルトレーニング講師やスタッフの確保に課題を抱えている。東中西3キャンパスいずれも講座開設に必要な人材の確保に困難を抱えているが、県教育委員会との連携により解決を図ることができると考える。

2 平成28年度 教育課程表 (乙)							整理番号	1/1		
教科	科目	学科等		普通科				週当たり授業時間数		
		標準 単位数	学年	1年次	2年次	3年次	卒業年次	履修	科目別	教科別
国語	国語総合	4		3				○		
	現代文	4			3					
	古典B	4				3				
	国語総合演習	3			3			☆		
	現代文B演習	3				3		☆		
	古典B演習	3					3	☆		
地理 歴史	世界史B	4			4			○		
	日本史B	4		4				△		
	地理B	4						△		
公民	現代社会	2			2			△		
	倫理	2				2		△		
	政治・経済	2				2		△		
数学	数学Ⅰ	3		3	3			○		
	数学Ⅱ	4				4				
	数学A	2			2					
	数学Ⅰ入門	3						☆		
理科	科学と人間生活	2			3			△		
	物理基礎	2				3		△		
	化学基礎	2						△		
	生物基礎	2		3				△		
保健 体育	体育	7～8		2	2	2	2	○		
	保健	2		2				○		
芸術	音楽Ⅰ	2		2				△		
	美術Ⅰ	2						△		
	書道Ⅰ	2						△		
	音楽表現	2			2			☆		
	美術表現	2			2			☆		
	書表現	2			2			☆		
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3		3	3			○		
	コミュニケーション英語Ⅱ	4			3	3				
	英語表現Ⅰ	2				3	3			
	英語入門	3						☆		
家庭	家庭総合	4			4			○		
情報	社会と情報	2				2		○		
	共通教科計									
工業	自動車工学	2～8			4					
商業	ビジネス基礎	2～4			4					
	経済活動と法	2～4				3				
	簿記	2～6			4					
家庭	子どもの発達と保育	2～6				2				
	服飾文化	2～4				2				
	フードデザイン	2～6				3				
福祉	社会福祉基礎	2～6			3					
	専門教科計									
校外学 修活動	ボランティア活動	1		1◆				☆		
	コミュニケーションスキル	1		1◆				☆		
	教科合計									
	社会とつながる力	1								
	卒業レポート	3～6					3	○		
	合計									
特別 活動	ホームルーム活動 学校行事			卒業までに30単位時間以上						
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・単位数について；1年次は原則8科目(22単位)とし、2年次以降は自由選択(年間履修上限30単位)とする。 ・科目について；体育は1・2・3・4(各2単位)と分割履修する。 ・履修の順序について；数学Ⅰを履修した生徒は、数学Ⅰ入門を履修することはできない。コミュニケーション英語Ⅰを履修した生徒は、英語入門を履修することはできない。また、1年次に数学Ⅰを修得した生徒は2年次に数学Ⅰを履修できない。同様に1年次に英語Ⅰを修得した生徒は2年次に英語Ⅰを履修できない。 ・1年次の国語総合(3単位)を履修していない生徒は現代文B及び古典Bの履修はできない。同様に数学Ⅰを履修していない生徒は数学Ⅱの履修、コミュニケーション英語Ⅰを履修していない生徒はコミュニケーション英語Ⅱの履修はできない。 ・理科については、1年次に生物基礎を履修させる。その後、2年次に科学と人間生活を履修して必履修完了とするが、2年次から3年次にかけて物理基礎と化学基礎を履修して必履修とするか、生徒に選択させる。 ・履修の記号について；○印は必履修科目・△印は選択必履修科目・☆印は学校設定科目・◆は校外学修 <p>この課程表は平成27年度入学の一般生用のものである。</p>									
生徒数	男									
	女									

(注) 単位制の課程においては、「学年」の欄を空欄とする。

通信制の課程においては、「週当たりの授業時数」を「年間面接指導時数」と読み替える。

学校等の概要

1 学校名、校長名

学校名：静岡県立静岡中央高等学校 しずおかちゅうおう 校長名：丹治 正 たんじ ただし

2 所在地、電話番号、FAX 番号

所在地：〒420-8502 静岡市葵区城北二丁目 29 番 1 号

電話番号：054-209-2431

FAX 番号：054-209-2278

※本校以外のスクーリング会場

東部キャンパス（県立三島長陵高等学校内 三島市文教町一丁目 3-93）

西部キャンパス（県立新居高等学校内 湖西市新居町内山 2036）

3 学年・課程・学科別生徒数、学級数

課程	学科	第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年		第 4 学年		合計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制											
	計										
定時制	普通科	—	—	—	—	—	—	—	—	663	55
通信制	普通科	335	—	262	—	256	—	572	—	1425	29
	計	335		262		256		572		2088	84

4 教職員数（定時制課程と通信制の課程の合計）

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	
1	4	3	0	0	94	0	2	
養護 助教諭	栄養教諭	講師	ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	その他	計
0	0	8	1	0	11	0	0	124